

令和6年度 地域循環共生圏づくり支援体制構築事業 北海道地方ブロック中間共有会 資料

活動団体の活動におけるテーマ 『バイオ炭活用と福祉NPOとの協働による 農・福・環連携事業』

活動団体の活動地域：北海道美幌町ほか
活動団体名：(株)大雪を囲む会
中間支援主体名：(株)地域価値協創システム

活動団体と地域の紹介

活動団体の紹介

◎活動目的

本社を美幌町として富良野、小清水等の北海道大雪山を囲む自治体にある有機農業生産者が、安全でおいしい農作物を消費者の皆様に提供することにより、生産者と消費者の相互理解を深めるとともに、環境にやさしい農業の推進を目指している。

◎活動エリア

北海道網走郡美幌町を中心に大雪山を囲む上富良野町、小清水町等

◎特徴

有機農産物の生産、販売に共同で取り組み、有機農産物を社会にもっと広める地域活動や、目指す農業スタイルが、自然にやさしい環境保全型農業であることから、地域の環境・経済・社会の課題解決及びローカルSDGs実現に貢献すべく活動を開始している。

地域の紹介

北海道オホーツク地域は農林水産業が主力産業であり、地域経済はそこに大きく依存している。人口減少、高齢化の進捗に伴い、地域経済が停滞、縮小していく中、今後も農林水産業をしっかり維持していくことは地域の大きな課題である。地域の1次産業では経営の大規模化が進み、現状、経営は比較的安定しているが、品質基準に合わず出荷できない生産物も多く発生しており、その処理方法もまだリサイクル化が確立されておらず、経済的なロスとなっている。今後ネイチャーポジティブ経済への移行が進むと予測される状況から、それに対応した課題策が求められている。

活動計画（概要）

地域循環共生圏の構築を通じてありたい地域の姿

“ローカルSDGsを実現した地域社会”

人口規模が小さく、豊かな自然環境に恵まれているオホーツク地域の農業生産者から率先してSDGsを実現するために、様々な地域資源を持ち寄り、地域内外のつながりも活かす仕組みをつくり、有機農業を軸として、多様な人たちがSDGs理念を共有しつつ、主体的に行動し、地域課題を解決していく地域社会

地域に必要なプラットフォームの体制や仕組み

(株)大雪を囲む会は法人化以前から美幌町内で長年農業を営んでおり、しっかりとした活動基盤を有しており、日常の活動において、地元自治体、各種行政機関、金融機関、商工団体等との接点も多く、地元NPO法人とも交流があり、さまざまなネットワークが利用できる状況にある。このメンバーを中心にプラットフォームを形成し、有機農業のメリットを伝える。

ローカルSDGs事業として取り組む内容

1. バイオ炭の製造・販売
 - ・農地施用によるJ-クレジット活用
 - ・燃料や農業、工業用資材の開発・販売
2. 地域循環共生圏づくり学習・観光事業
 - ・地元の学校と民間企業等の協働による探究学習の構築
 - ・教育旅行やサステナブルツアー商品造成及び提供

地域の現状

地域の基幹産業である農業において大規模化が進み、経営が安定した生産者は存在するものの、農地集約の背景には、人口減少や高齢化による後継者不足による廃業、離農がある。また規格に合わず、出荷されない生産物も多く発生しており、経済や環境におけるロスとなっている実態がある。さらに近年の異常気象で水害も多発し、「みどりの食料システム戦略」等においても地域温暖化防止に向けた緩和策、適応策が強く求められており、加えて化学肥料、農薬等の河川、海洋への流出も懸念されている。

2

活動状況（計画の進捗状況）

○有機農業拡大

- ・地元有機農産物消費拡大＆バイオ炭PRイベント
- ・有機農産物利用商品開発
- ・みどりの食料戦略システム関連視察対応
- ・有機農産物の道内外販売先確保
- ・地元若手農業者への有機栽培指導
- ・経済団体、金融機関依頼セミナーでの事例紹介

○バイオ炭製造・販売

- ・バイオ炭農地投入に関連する各種試験項目検討
- ・バイオ炭PR活動（SNS,HP,動画制作）
- ・東京農業大学、北見工業大学への調査・試験協力要請（プラットフォーム参加）
- ・北海道北見北斗高校探究学習でのバイオ炭探究の取り組み支援

有機農産物消費拡大イベント



有機農業視察の様子



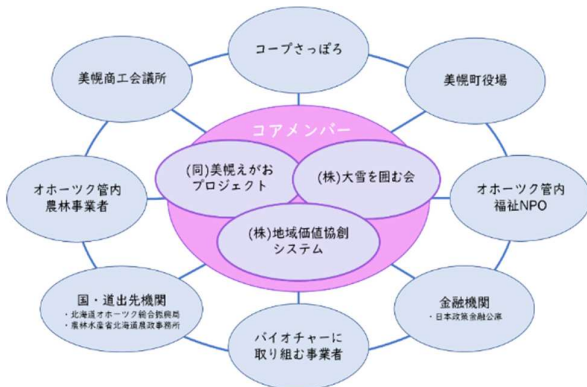
バイオ炭PR動画



3

目指す“地域プラットフォーム”のイメージ

現時点での体制



(株)大雪を囲む会と連携した社会福祉NPOや行政機関、企業等が核となり、有機農業を環境保全ビジネスとして確立し、次世代のブランド力のある事業として、担い手の育成を進めながら、育てていくプラットフォームを目指しています。

今後は下記のメンバーを重点的に加えて、プラットフォーム形成を進めて行きたいと考えている。

・教育関係者（地元高校・大学）

SDGsを中心に環境学習を通して、地域の未来をともに考える

・環境保全農業に取り組む事業者

バイオチャー活用を中心とする農業分野の環境事業に取り組む事業者ネットワーク形成

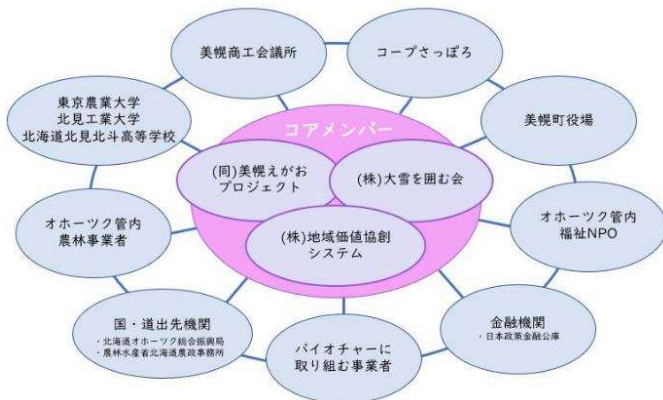
想定している資源（モノ、資金、情報、等）※地域内、外も含む

- ◎人的資源：環境保全農業に関心を持つ農業者、環境に配慮した商品購入希望者・企業
- ◎物的資源：豊富なバイオマス資源
- ◎情報資源：SDGs達成に向けた情報、ネイチャーポジティブ経済に関する情報

4

現在の“地域プラットフォーム”

① 現在の地域プラットフォーム



③ 地域プラットフォームづくりで困ったことや課題

- ・地元大学、高校との関係性は事業開始当初より強くなっているが、今後有機農業拡大との関連性をどのように構築していくか不透明なところがある。
- ・新しいことに取り組む余裕が少なく、プラットフォーム強化の可能性を強く感じても、スピード感を持った取り組みが難しい。

② 地域プラットフォームの進展、変化

- ・東京農業大学とは、バイオ炭の経済循環への効果、農地投入の効果の2点で調査協力を得る方向で調整が進んでいる。
- ・北見工業大学は土壌の植物の根への影響を研究している研究室と接点を持つことができ、今後のバイオ炭の農地投入効果確認への協力が期待できる。
- ・北見北斗高校でバイオ炭に関する探究をするグループが2グループあり、バイオ炭への関心が広まっている。

④ 課題解決に向けた今後の展望

- ・みどりの食料戦略システム推進として有機農業の拡大への関心が高いので、有機農産品を活用した商品開発及び販路の拡大に向けた活動に注力していく。
- ・バイオ炭、特に廃棄野菜炭の農地投入は地元農業への貢献が高く、農業分野の環境負荷低減にも寄与することから、圃場での試験を充実させていく必要がある。

5

地域循環共生圏を実現することで目指す地域の姿

< 私たちのありたい未来の地域像 >

資源を活かし経済を地域で循環させ多様な人が安心して働き暮らせる地域



【期待する成果】

脱炭素社会

エネルギーの地産地消
日常生活の脱炭素化

バイオ炭の購入・協力者増
余剰物の再資源化
J-クレジット創出
バイオ炭の用途拡大

循環経済

多様な働き手確保
様々な商品・サービスの地産地消
地域内外のネットワークづくり

分散型自然共生

SDGsへの関心度UP
将来の担い手育成
地域資源の再認識

【事業】

環境事業

・J-クレジット創出
・農業、建築資材開発
・脱炭素パネル展



観光事業

・エコツーリズム
・炭フェス、炭カフェの開催
・キッチンカーによる商品紹介
・バイオ炭商品体験

教育事業

〈ローカルSDGsへの理解を
地学協働学習を通して深める〉
対象者…中高生、地域住民、企業関係者

※ステークホルダー

北海道開発局 北海道農政事務所 東京農業大学
林産試験場 美幌町役場 立命館大学
商工会議所 金融機関
農業・林業者 北見NPOサポートセンター

フリースクール 教育委員会
寺子屋 中学・高校
地元NPO 商工会議所

【課題】

- 多様な人が働ける場の確保
障がい者・就労条件に制約のある子育て世代
- 大量の未利用資源の有効化
間伐材・出荷できない農産物の付加価値化

【資源】

- 人的資源
福祉・子育て世代の就労希望者がいる
- 物的資源
未利用の木質バイオマス資源
規格外野菜・農業残差物
- 情報資源
オホーツク地域の観光地イメージ
北海道ブランドの食材が豊富



6

ローカルSDGs事業の詳細

地域プラットフォーム（PF内のメンバーやコアメンバー）で生み出そうとしている
ローカルSDGs事業の詳細

〈環境にやさしい農業を目指した地域循環共生圏づくり〉

地域の
ビジョン

ローカルSDGsを実現した地域社会

- ・地域課題
- ・地域課題解決策
- ・インパクト評価

の見える化

有機農業を軸とした
地域活性化システム

共感

資金・ステークホルダーの増加
新たに加わる
ヒト・モノ・カネ・情報

売上増



(株)大雪を囲む会
+
域内外企業・団体

課題解決（社会・経済・環境）に
ボーダレスで取り組むエコシステム

農業
教育 福祉
環境 観光

中間支援・伴走支援
(株)地域価値協創システム
+
支援メンバー

取組内容

J-クレジット

〈農機連携事業〉

- ・有機農業製品を使った商品開発
- ・共同販売サイト運営
- ・キッチンカー販売
- ・商品開発・販売を通じた担い手育成

CO₂削減

〈バイオチャー事業〉

- ・バイオ炭生産（Jクレジット・農業用資材等）
- ・イベント、セミナー開催
- ・環境学習を通じた担い手育成
- ・環境教育旅行・サステナブルツアー商品造成

雇用創出



- ・戦略、マーケティング
- ・商品開発
- ・テクノロジー利用
- ・コミュニティ強化
- ・人材育成システム構築
- ・地域合意形成の仕組み構築
- ・コミュニティ間ネットワーク形成

有機農業を支援し 雇用・地域福祉・環境を守る

一次産業 環境を軸とした循環経済

7

3 年状態目標

2026年度末の状態目標

- 福祉NPOとの協働事業実施
農産物・加工品共同販売システムの完成
- 地域共生圏づくり構想具現化
有機農業を軸としたゼロカーボンファーマーミング推進システム構築
- 支援ネットワーク拡大
道内外の支援者・支援企業の拡大

2025年度末の状態目標

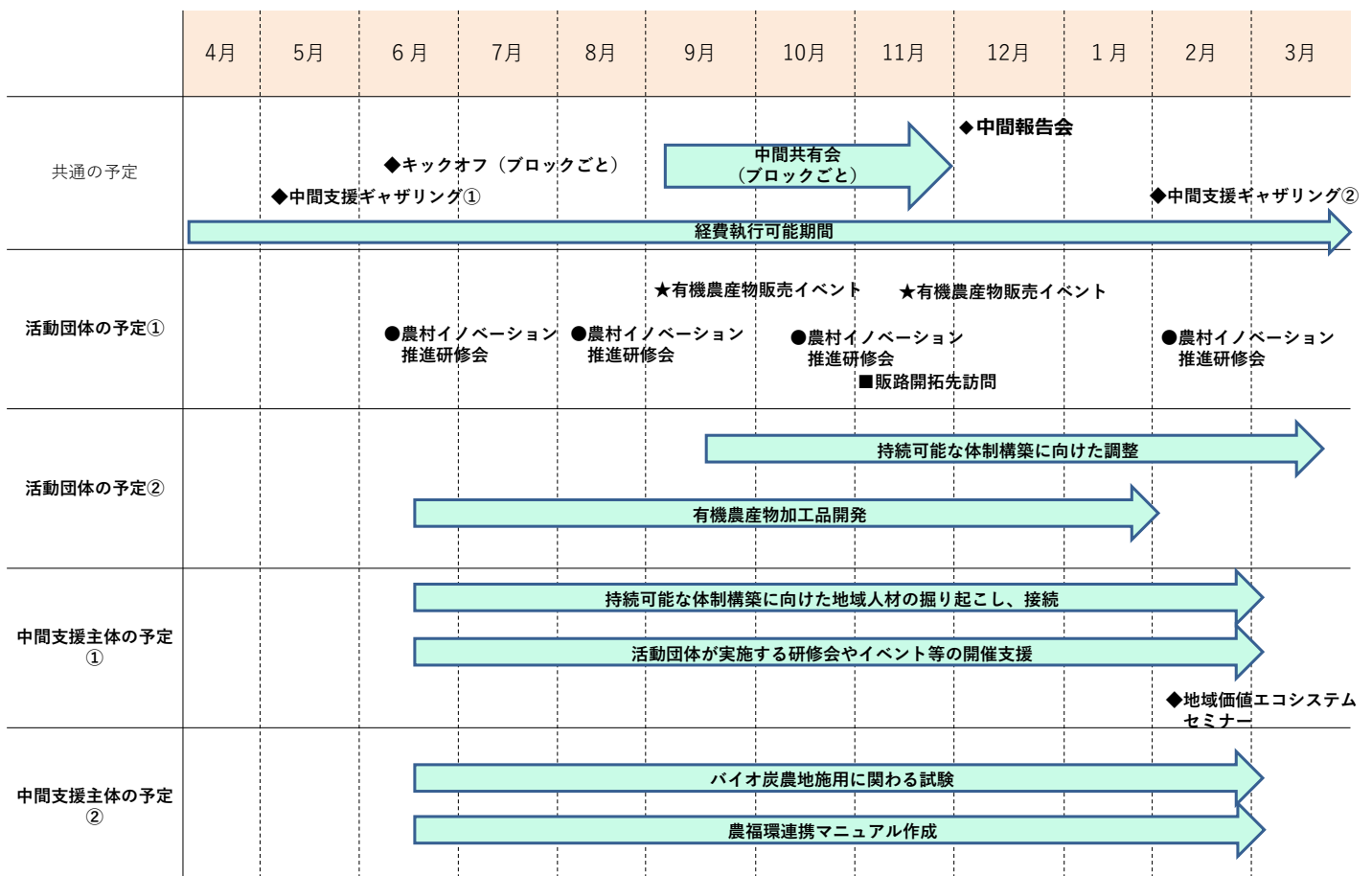
- 福祉NPOとの協働事業実施
農産物・加工品共同販売システム試験運用
- 地域共生圏づくり構想具現化
有機農業を軸としたゼロカーボンファーマーミング推進システム設計
- 支援ネットワーク構築
道内外の支援者・支援企業の組織化

2024年度末の状態目標

- 福祉NPOとの連携体制確立
有機農産物活用方法の検討
- 地域共生圏づくり構想概略
有機農業を軸としたゼロカーボンファーマーミング推進への関心度向上活動
- 道内外ステークホルダー確保
道内外の支援者・支援企業へのアプローチ

8

活動計画



9

中間支援主体より

中間支援主体の紹介

◎活動目的

北海道オホーツク地域の社会福祉NPO法人が出資して設立した法人である。地域資源から新たな価値を創出するために、多様な主体と協働で取り組み、次世代の地域デザインを描き、実現するための担い手、働き手を育成し、持続可能な地域づくりを目指している。

◎活動エリア

北海道網走郡美幌町を中心に周辺自治体

◎特徴

営利、非営利の境界を従来の基準で考えるのではなく、地域維持の観点から新たな枠組みを創造し、次世代型事業モデルを連鎖的に生み出すプラットフォーム整備をおこない、民間主導で広域で活動し、生産性の高いローカルSDGs事業を推進している。

活動団体の取り組みへのコメント、中間支援の方針・計画

○支援方針

北海道オホーツク管内の有機農業の拡大、推進の中心的役割を担えるよう、NPO団体等との協働推進や有機農業の魅力度や必要性を高める活動を支援する。

○支援計画

- ①有機農業への関心度向上
- ②多様な主体とのつながり
- ③協力先の開拓・拡大
- ④加工品開発

10

中間ふりかえり（活動団体）

気づきや発見

- ・ 本事業を実施することで、多くの人との出会いがあり、自分たちのいままでの農業への取り組みが客観的に評価されていることを感じることができた。

課題や悩みに感じていること

- ・ 今後、有機農業を広めていくためには、有機農産品六次化の重要性を感じているが、実施体制がまだまだで、いろいろな方々の協力が必要である。

中間ふりかえり（中間支援主体）

気づきや発見

- ・ みどりの食料戦略システムの目標値が現状から考えると高い数値であり、有機農業やバイオ炭への関心の高さは、今後も高まり続けていく感触をいろいろな形で得ることができた。

課題や悩みに感じていること

- ・ 有機農業の拡大が環境保全、共生圏づくりにどのような貢献するか、わかりやすく伝えていく手法の確立に時間がかかりそうに思っている。

11